

コロナ禍の取り組みと コロナ後の新たな取り組みについて

NPO法人 地域生活支援ネットワークサロン
大木 瞳

釧路市は...



人口 158,533人 (8月末)

保育園 認可保育所9か所 (夜間1か所)
認定こども園 32か所
地域型保育事業施設 5か所

児童発達支援 46か所
放課後等デイサービス 64か所
保育所等訪問 15か所
(釧路町・白糠含む)

子どもの育ちや子育てを応援する事業

ぼれっこ倶楽部 放課後等デイサービス 児童発達支援事業所	親子の家 地域活動支援センター 子育ての茶話会を開催中	コミュニティサロンいんくる 指定計画相談 担当児童数 17名
コミュニティホーム大川 自立援助ホーム 制度外の若者の下宿	Frame free Project 自分たちの生きづらさを 研究する若者の活動	

コロナ禍だからこそ①

釧路市女性活躍推進つながりサポート事業 「ここナブ」

釧路市から委託を受けて1年半程活動

- ・ナブキンの配布
- ・女性のための何でも相談
- ・「子育てに関する気持ちを話せる 茶話会」の実施

茶話会を通じて出会った悩み

- ・夫の発達障がい
→モラハラ？DV？そう思っているけど動きだせない
- ・支援を受けていても子どもの育ちについて教えてもらえる機会が少ない
- ・発達障がいと言われたが支援に繋がる機会がなく、家族だけが本人の理解者
→困り感を話す場が少ない
障がい福祉では出会うことができない

コロナ禍だからこそ②

必要になった突発的な預かり...

- ・学校が学級閉鎖
家族は仕事、放課後デイサービスは利用できない...
- ・母が弟を生むために入院
本人は微熱で学校から帰ってきてしまったが...

→事業所内では受け入れが難しい。
人では支援をしてる若者たちの力を使って埋める！

「計画相談＝使える人」の認知を得られる機会作り

困った時に「まず連絡してみよう」と思える相手になる

→病院同行・日中の預かり・ショートステイ

一緒にいる機会が増えるからこそ、家族や本人の理解が深まる

子ども・家族の日常を知る機会の大切さ

コロナ禍だからこそ③

距離が近い若者たちそれぞれ
「コロナが流行っているから」を理由に距離を調整

企画していた若者合宿は出来ず、個別での受け入れ
ごちゃ混ぜを実感できる機会減

コロナ禍で気づかされる「繋がり」

必要な「繋がり」とは？

繋がり＝サービス利用ではない

学ぶ機会・説明を受ける機会について

その子にとっての今後・家族にとっての今後を考える

今後の取り組みについて

- ・育ちを丁寧に伝える機会づくり（本人・家族・支援者それぞれ）
- ・サービスで出会えない子ども・家庭との出会うための場

→茶話会は親子の家にて引き続き実施

- ・「楽しい」「やってみたい」を大切に活動
- ・子ども・家族の日常を応援できる計画